



来週の投資戦略 (2/8-12)

個人が割安株を動かす？

2021年2月7日

小松 徹

注目事項 — 見所

主要企業決算 — 成長企業の増益率は？不振企業の回復度は？

株式市場見通し

先週のが国株式市場はほぼ全面高となったが、主役は昨年とは大きく違った。いわゆる割安株が成長株を大きく上回って上昇したのだ。東証発表の 500Value 対 500Growth では+6.62%対+2.69%と 4%も差があった。実は1月には+1.56%対▼0.84%となっており、年初来では6%以上の差になっている。割安株の筆頭がマツダ(7261)と言えよう。先週木曜日発表の10-12月期営業利益が3四半期ぶりに黒字転換、今年度の利益見通しを大幅上方修正した。これに米アップルが電気自動車の生産受託者を探しているとの記事も出たことから、投資家は幾つかの自動車株に飛びついた。

ここで最近の投資家の売買動向をおさらいしておく。昨年11月まで買いの主体は外国人商品投資顧問業者(CTA)あるいはヘッジ・ファンドであったが、昨年10月から外国人機関投資家に移り、1月最終週には個人投資家が戻ってきた。その週は米国ゲームストップ(ゲーム専門店)株と米ヘッジ・ファンドの仕手戦で、わが国株式市場にも波乱があった。個人投資家は市場の上昇期間ずっと売り越してきたが、ここに来て戻ったのはやや意外感がある。ただ、先ほど述べた市場の主役交代と重ね合わせると合点がいく。どうも彼らは成長株を売った後、割安株あるいは循環株(シクリカル株)を狙って動いているようだ。

さて、米国の10年物財務省証券の利回りが先週末に1.16%で引けた。バイデン米大統領の追加予算案1.9兆ドルがこれまで何度も消えては浮かんだが、先週土曜日に上院で可決され、再度下院で審議される見込みだが、いよいよ現実味を帯びてきたことを受けた市場の反応と見る。沈んでいた銘柄群も景気回復の恩恵を受けるとの期待感がかなり高まった。

来週注目する決算は、月曜日のソフトバンクグループ(9984、以下SBG)、火曜日の本田技研工業(7267)、ダイキン工業(6367)、水曜日発表のトヨタ自動車(7203)などである。アナリストはSBGの今期営業利益と純利益を2兆円と予想している。市場がこのまま安定すれば、それ以上の実績になる可能性もあろう。ホンダは第2四半期にアナリストを驚かせる好業績を発表したが、最近では半導体不足で減産計画に修正との悪いニュースも出ているので注意も必要だろう。ダイキンは新製品効果でコロナ禍にあっても最も成長している企業だ。期待感が高いだけに利食いの対象にならないか。トヨタはこれまで関連会社、子会社の好決算を受けてかなり大幅上方修正が期待されている。

KPAの投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、来期大幅増益株	高PB低位株、高PE新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。本レポート執筆時点で、KPA 役員あるいはKPA のお客様は本田技研工業を保有しております。